

島根県東部におけるタイワントビナナフシの記録

守岡里穂*・岡本國宏**

Record of *Sipyloidea sipylus* (Westwod) in Eastern Shimane Prefecture

Riho Morioka*, Kunihiro Okamoto**

Abstract : The stick insect *Sipyloidea sipylus* (Phasmatodea: Lonchodidae) is mainly distributed in southern Japan, south of the Kyushu Region, and its distribution has been recently expanded northward. In 2018, this species was first recorded in Masuda City in the western part of Shimane Prefecture, and five individuals were subsequently reported from the same area. During our biological survey on August 25, 2024, a female final instar nymph (ca. 70 mm) was captured along the bank of the Iinashi River in Hirose Town, Yasugi City, in the eastern part of Shimane Prefecture, representing the sixth record of this species. It has been suggested by previous studies that the expansion of *S. sipylus* may be facilitated due to both natural dispersal and anthropogenic transfer of horticultural plants. Given the distance of the present capture site from residential areas, as well as the status of the captured specimen as a flightless nymph with limited mobility, it should be considered that a novel population of this species has already established itself in the eastern part of Shimane Prefecture. This hypothesis is strongly supported by the subsequent confirmation of multiple adult individuals in Matsue City in 2025, suggesting the species is indeed established in the eastern region of Shimane Prefecture.

Keywords : domestic alien species, stick insect, *Sipyloidea sipylus*, Range expansion, Shimane Prefecture
キーワード : 国内外来種, ナナフシ, タイワントビナナフシ, 分布拡大, 島根県

1. はじめに

タイワントビナナフシ *Sipyloidea sipylus* (Westwod) はナナフシ目トビナナフシ科の昆虫である。「新訂原色昆虫大図鑑第Ⅲ巻」(平嶋・森本, 2008)によると, 体色は灰褐色で体長は80 mm内外。成虫ではトビナナフシ類の中で後翅が最もよく発達していることが特徴的である。また, 多くのナナフシ類は卵を地上に落とすが, 本種は卵を植物上に産み付けることが知られている。分布は日本では九州北部以南であり, 台湾・東洋熱帯にも生息する(平嶋・森本, 2008)。しかし, 本種は近年本州北上していることが知られており, 本州でも確認が相次いでいる(市

川, 2016)。島根県では2018年に益田市で初めて確認されたが, 島根県において2025年11月現在までに益田市以外での記録は報告されていない(皆木・大畑,



図1 タイワントビナナフシを発見した地点

* 島根大学大学院自然科学研究科, 〒690-8504 島根県松江市西川津町 1060

Graduate School of Natural Science and Technology, Shimane University, 1060 Nishikawatsu, Matsue, Shimane 6908504, Japan.

** 島根大学生物資源科学部, 〒690-8504 島根県松江市西川津町 1060

Faculty of Life and Environmental Sciences, Shimane University, 1060 Nishikawatsu, Matsue, Shimane 6908504, Japan.

2020). この度鳥根県安来市および松江市において本種を捕獲したため報告する.

2. 発見の経緯

2024年8月25日に鳥根大学総合環境サークルエコロジネットワークの部員7名で鳥根県安来市広瀬町を訪れ、飯梨川の生物調査を行った際に捕獲した(図1). 捕獲した個体は体長約70 mmのメスの終齢幼虫であり(図2), ヨシやその他イネ科草本が茂る飯梨川の東岸(図3)でタモ網の柄に掴まっているところを発見した. 調査は現地での観察を目的としていたため, 捕獲した個体は観察後, その場で放した. その後, 2025年には松江市内において, 体長約75 mmのメスの成虫が複数箇所を確認された(図1). 確認した場所は東朝日町の駐車場, 松江市西持田町の道路脇, 松江市上東川津町の和久羅山頂上の3地点である. このうち松江市東朝日町で確認した個体を捕獲・標本化し, 鳥根大学総合博物館アシカルに寄贈した.

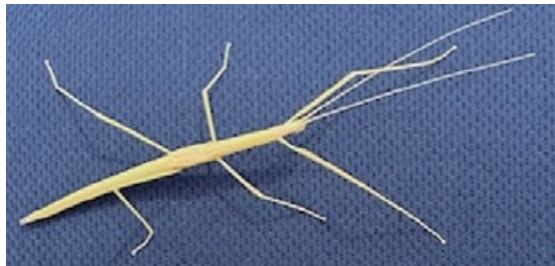


図2 鳥根県安来市広瀬町で発見したタイワントビバナフシ



図3 発見した川岸の様子
(A): タイワントビバナフシを発見した飯梨川東岸支流付近の茂み, (B): 飯梨川の川岸の様子

【記録】

2024.8.25	1 ♀ (終齢幼虫)	鳥根県安来市広瀬町
2025.8.30	1 ♀ (成虫)	鳥根県松江市東朝日町
2025.9.25	1 ♀ (成虫)	鳥根県松江市西持田町
2025.10.8	1 ♀ (成虫)	鳥根県松江市上東川津町

3. 近県における分布状況

鳥根県では2018年11月に益田市下本郷町の民家の庭で初採集の記録が報告されており, 以降2019年にかけて初記録地と同様の庭で以下に示す合計5匹のタイワントビバナフシが見つかった(皆木・大畑, 2020)(図1).

また, 中国地方では2020年9月に鳥取県米子市川崎町で2個体のメスの成虫が見つかった(川上・鶴, 2021), 2016年までに岡山県, 広島県, 山口県でも本種が確認されている(市川, 2016).

【これまでの鳥根県の記録】

(鳥根県益田市で確認されたタイワントビバナフシ(ナナフシ科)の記録(皆木・大畑, 2020)より引用)

2018.11.16	1 ♀	鳥根県益田市下本郷町
2018.11.18	2 ♀	鳥根県益田市下本郷町
2019.8.23	1 ♀	鳥根県益田市下本郷町
2019.9.21	1 ♀	鳥根県益田市下本郷町

4. さ い ご に

これまでに鳥根県内で本種が確認されている益田市と安来市は遠く離れている(図1). しかし2020年に安来市から直線距離にして約14 km, 中海を迂回した陸路では約24 km離れた鳥取県米子市川崎町において本種のメスが2個体発見されており, その内の1個体は捕獲した翌日から飼育環境下で断続的に産卵したと記録されている(川上・鶴, 2021). 鳥取県の個体が定着していた場合, その集団からの移入が考えられる. また, タイワントビバナフシは植物に卵を産み付ける習性があり, 園芸植物の移植により分布を拡大させていると考えられていることから(皆木・大畑, 2020), 今回発見した幼虫も人為的に持ち込まれた個体である可能性は高い. 今回安来市のタイワントビバナフシを発見した場所は人家や人為的な植物の移植があると思われる施設からはやや離れた川岸であり, 発見した個体は飛行能力を持たず移動能力に乏しい幼虫であったことから, 人為的に持ち込まれ成虫となった個体が移動し, 再生産を行った結果生まれた個体である可能性も示唆される. 加えて, 2025年には松江市で成虫の

発見が相次いだ。3個体の確認地点はそれぞれ異なり、松江市をはじめとする島根県東部において本種が定着している可能性が高い。

タイワントビナナフシを含むナナフシの多くはメスのみでの単為生殖による繁殖が主であることから定着しやすく（市川，2016），今後の分布の変化を追跡する必要があると考える。

謝 辞

本稿の取りまとめにあたり，島根大学学術研究院農生命科学系教授の荒西太士先生よりご助言を賜りました。深く感謝申し上げます。また，情報をご提供いただいた加藤巧氏ならびに調査メンバーである出田晃

己，牧山優太，古山圭吾，保田尚海，平田良，名嘉真朝大の各氏に心より感謝申し上げます。

引 用

- 市川顕彦（2016）日本産直翅類標準図鑑，日本直翅類学会（編），学研，東京，196p.
- 川上靖・鶴智之（2021）鳥取県におけるタイワントビナナフシ（ナナフシ目トビナナフシ科）の初記録，山陰自然史研究 17：28-29pp.
- 皆木宏明・大畑順二（2020）島根県益田市で確認されたタイワントビナナフシ（ナナフシ科）の記録，島根県立三瓶自然館研究報告書，No. 18，March 2020，119-120pp.
- 平嶋義宏・森本桂（2008）新訂原色昆虫大図鑑 第三巻，北隆館，東京，96pp

